

京都府図書館等連絡協議会実務研修会（中部会場）概要

テーマ：見やすい、わかりやすい、伝わりやすい広報物・掲示物作成のコツ

演 題：「思いが届く！魅力を伝える！ ～図書館に行きたくなるデザインとは～」

講 師：舟越 一郎 氏（京都市立芸術大学 教授）

会 場：京都府立図書館 マルチメディアインティグレーションルーム

日 時：令和5年12月14日（木） 午後2時～4時15分

参加者数：44名（うち事務局9名）

概 要：

図書館では、利用者に対して、お知らせや主催する行事について、ポスターやWEBサイトなどで広報しています。その際、ポスターや記事にどのような書体を使うか、文字の色をどうするか、写真や絵・図なども含めた全体の画面構成をどうするかなど、少しでも相手にわかりやすく印象深い紙面になるよう、日々悩みながら作成しています。しかし一方で、図書館という施設の性格からか、「堅苦しく、退屈な掲示物が多い」と感じる図書館職員も少なからずいました。

そこで今回、デザインについて詳しい方をお招きして、直接「わかりやすく、伝わりやすい」広報物・掲示物作成について、コツを教えていただくことになりました。講師の舟越先生は、大学教員になる前、百貨店宣伝広報会社や株式会社ソニーのデザイン部門で、商品のパッケージやロゴブランディング（会社名・商品名などの文字を特別にデザインしたものの〈ロゴ〉によって、企業のイメージや価値を顧客に伝える活動）に直接携わってこられた方です。手掛けられた中に、「VAIO」（ノートパソコン）、「BRAVIA」（テレビ）などがあります。

講演では、

○優れたデザインは、情報が整理されている。

○ポスターやチラシは、情報を伝えたい対象者を絞ってつくる。

例、親子向け、社会人向け、子ども向け、お年寄り向け

○3m離れたところからも目を引くようなデザインにする。

○細かい情報は、興味を持った人が、ポスターに近づいたり、チラシを手を取ったりして、後からじっくり読んでもらえる。

例、申込方法や持ち物などはこれに当たる。したがって、こうした情報は、「見

出し」的に大きな文字で表示しなくてよい。

○そのため、まず、伝えたい情報を重要な順に大きく3つに分ける。

○次に、3つに分けた情報をさらに2、3個に分けて、大きさや配置を決めていく。といったことを、ペットボトル飲料の広報を例にとって説明していただきました。

また、どの人にとってもわかりやすいというユニバーサルデザインの視点では、

○余白を充分とって読みやすくする。

○色覚障害のある方への配慮として、強調したい内容を色の変化だけで伝えるのではなく、字を大きくするなどの工夫があると良い。

ことを助言していただきました。そして、「京都市情報館 みやこユニバーサルデザイン」(京都市)や、「ユニバーサルデザインに配慮した印刷物デザインの手引き」(福岡市)など、広報書類作成に当たって参考にすると良いWEB情報源を紹介していただきました。

後半は、学んだことを生かしてワークショップを行いました。舟越先生のご指導のもと、参加者それぞれが切り紙を使ったクリスマスカード作りに取り組みました。

明日からの広報資料作成にすぐに役立つ、たくさんのことを学ぶことができた有意義な研修会となりました。(1146字)